

DATA FILE



六方晶系

名前	SILICIFIED WOOD(シリシファイドウッド)/珪化木
化学組成	SiO ₂
色	褐色、灰色、ピンク色、赤色など
光沢	脂肪光沢、ガラス光沢
蛍光	黄色、緑色
条痕	白色
劈開	なし
断口	貝殻状
硬度	7
比重	2.7

けい か ぼく

珪化木

SILICIFIED WOOD

地下に埋没した木に含まれている成分が部分的に二酸化ケイ素と置きかわったものを珪化木という。

脂肪光沢またはガラス光沢を持つ。

珪化木の塊。一見すると木のように見えるが、石英化している。

劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

紫外線ランプを照射すると黄色や緑色の蛍光を示すものがある。



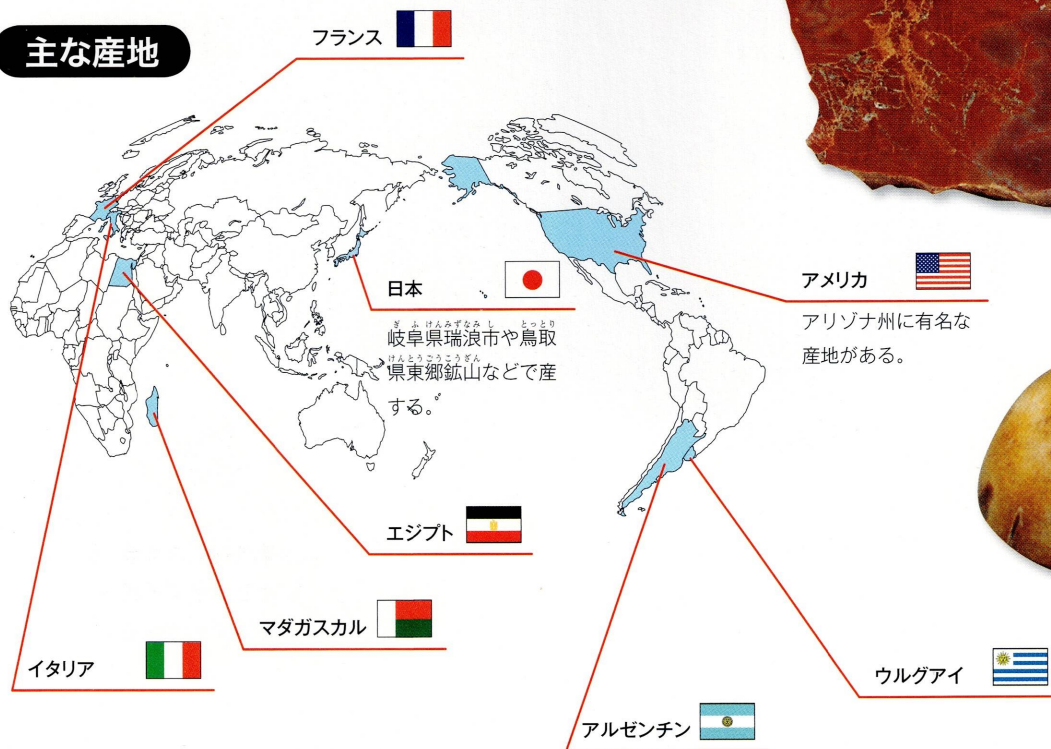
石英化した樹木

枯れて倒れた樹木は、やがて土に覆われて地下に埋没する。その後、長い年月をかけて土の重みなどによる圧縮を受けると、木の外観を残したまま、含まれている有機物質が部分的にシリカ（二酸化ケイ素）に置きかわることがある。このような過程を経てできるのが「珪化木」だ。珪化木の色はもとの木と同じ褐色であるのが一般的だが、灰色やピンク色、赤色、紫色、黄色などでも産出。主に装飾品や工芸品に利用され、箱や灰皿、テーブル、大きな家具のはめこみ細工などに加工されている。

▼岐阜県美濃加茂市で見つかった珪化木。



主な産地

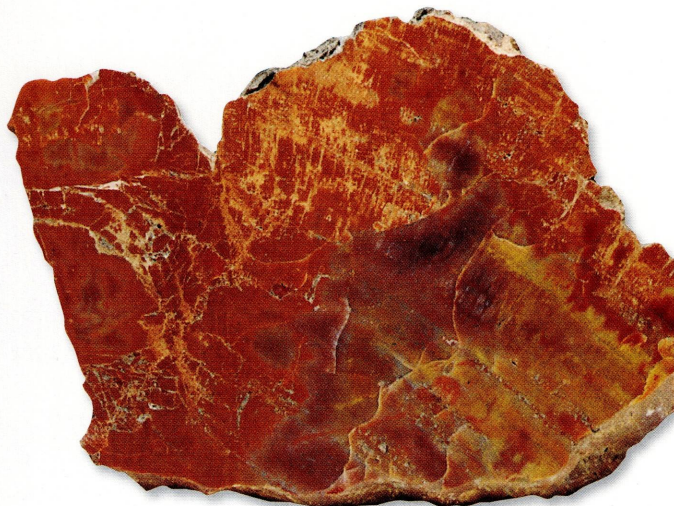


▲典型的な繊維構造が見られる珪化木の一部。

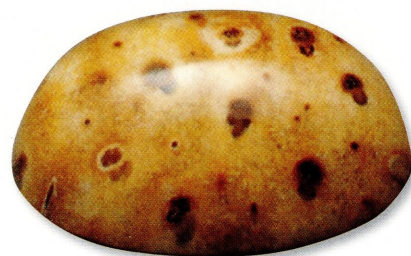
木の痕跡

珪化木のもとなる木は何億年や何千万年も前のものだが、表面をよく観察すると、木の繊維状構造や円心円状の年輪が残っていることが確認できる。そのほか、幹に生息していた虫や幼虫が化石化したものや、シリカからできる碧玉、玉髄、水晶などが含まれていることもある。

最も有名な珪化木の産地は、中生代三畳紀の地層が分布するアメリカのアリゾナ州ペトリファイドフォレスト国立公園で、日本では、新生代第三紀頃の地層中から多く発見されている。なお、同じ生成過程を経て石英ではなくオパール化したものは「ウッドオパール」と呼ばれる。



▲研磨された珪化木。アメリカのアリゾナ州産。



▲カボションカットが施された珪化木。